

多様なニーズに挑む 岡山協立病院の真価

総合病院岡山協立病院リハビリテーション部は、急性期から回復期、在宅まで一連の入院リハビリを提供しており

写真上、退院後も外来リハビリや訪問、通所リハビリを提供しています。また、透析患者さんへのリハビリにも積極的に取り組んでいます。入院患者さんには早期から多職種カンファレンスを重ね、病態・生活歴・介護サービスな



くさち・かいと 吉備国際大学卒。2020年、理学療法士として総合病院岡山協立病院に入職。日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会による3学会合同呼吸療法認定士の資格を有し、院内・通所・訪問・予防の各領域を兼任。病院広報プロジェクトリーダーを兼務。

① 入院から暮らしへ 一途切れないリハビリテーションの誇り

岡山協立病院リハビリテーション部
・事務長室副主任

草地 海翔

どを統合して、退院に向けたオーダーメイドの計画を作成します。

その後、リハビリスタッフは医師や看護師、医療ソーシャルワーカーなどの専門職とリアルタイムで情報共有を行い、必要に応じて通所リハビリ・訪問リハビリへの橋渡しを担います。また、当法人（岡山医療生活協

同組合）は「地域まるごと健康づくり」を掲げ、病院外での予防医療にも取り組んでいます。専門職の知見を生かした講義の開催や、岡山医療生活協同組合comcom本館で「フィットネスコムコム」の提供などを行っています。

域と協働して一次予防を進めています。一般的に筋力が低下することで健康的な生活を維持することが困難になります。現在、吉備国際大学の河村頤治教授と共同で、地域のどこにでも持ち運びのできる新たな下肢筋力評価機器を開発し、その安全性と有用性の検証を進めて

います。こうした切れ目のない支援が、けがや病気による再入院の抑制や在宅生活の継続率向上につながっています。

■「地域で暮らす」を模した院内テラス

退院支援の核心は「家に帰ってどう暮らすか」にあります。リハビリテーション部では、園芸療法の視点を取り入れ、スタ

ッフ主導で院内テラスを改装しました。畝づくりやプランター、散水・道具保管まで、家庭菜園や農業復帰の動作を入院中からリハビリでできる環境を整備しています。写真中。

農業が身近な岡山県の地域性に合わせ、土や水、段差といった「生活の負荷」を安全に再現することで、退院後の自立度を一段引き上げています。

■大規模イベントにおける医療支援力

院外医療支援の一環として、数万人が参加するような大規模イベントでの救護支援を体系化。主催者と事前協議を行い、リスク評価から救護所配置、AED網の設計、搬送ルートまでをプランニングしています。

多職種で現場本部を運用し、トリアージ・熱中症・外傷対応・記録・物品管理を標準手順で回しています。写真下。また、当院の医師を中心に岡山マラソンや西大寺マラソンで救護支援を行い、地域に根ざした救護体制の確立に努めています。

岡山協立病院（086-272-2121）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。